

白馬・小谷の植物覚え書き

吉沢 敏江*

白馬村と小谷村は長野県の最北西部に位置し、西側に白馬・後立山連峰、東側に雨飾山から連なる東部山地に囲まれた地域で、中央には、白馬村佐野地区を源流とする姫川が北に向かって流れている。白馬岳の標高 2932m から新潟県境の姫川流域の約 170m まで大きな高度差を有している。気候は、日本海型気候を示し冬期積雪が多い。

白馬村・小谷村およびその周辺の植物については、今まで多くの調査・報告がされてきたが、最近分布上興味深い種類や、新たに生育（地）が確認されたものがいくつか発見されてきたので、それらを報告する。

イヌスギナ（トクサ科）*Equisetum palustre*
小谷村雨中 550m 2014 年 5 月 20 日
Yoshi-00001

放棄水田数枚に多数生育しているのを確認した。本種は、2014 年改訂の長野県レッドリストで新たに準絶滅危惧として記載されたものである。

これまで、小谷村では小谷村誌「小谷村の植物」（1993）に中土、小谷温泉付近での記録があり、白馬村では生育地名なしで白馬村誌に記録がある。（写真 1）

フモトシダ（コバノイシカグマ科）
Dennstaedtia scabra

白馬村深空樵の道 730m 2015 年 11 月 20 日
NAC175939

胞子囊群をつけているもの 1 株を確認した。白馬・小谷地区では、上野・上野（2014）によって、白馬村親海湿原での生育が報告されているが、親海湿原より数キロ北の深空地籍の杉林でも生育を確認した。詳細に調査を行えば、さらに付近に生育している個体が見つかる可能性は高い。（写真 2）

イワガネソウ（ホウライシダ科）
Coniogramme japonica

白馬村深空樵の道 730m 2015 年 11 月 20 日
NAC175920

これまで、白馬村佐野坂と同塩島城址での生育は確認されていたが、同村内深空地籍の杉林でも群生しているのを確認した。同所にはホソバイヌワラビ（イワデンドコ科）も多数生育していた。（写真 3）

キヨスミヒメワラビ（オシダ科）
Dryopsis maximowicziana (= *Ctenitis maximowicziana*)
小谷村北小谷来馬 530m 2013 年 7 月 16 日
NAC165806

シラガシダとも呼ばれる暖地性のシダで、長野県では南木曾や天竜村などの県南部に分布している。落葉広葉樹の混じる杉林で約 10 個体の生育を確認した。県中東北部での確認は、今回が初めてである。改訂された「長野県版レッドリスト植物編」（2014）では準絶滅危惧にランクダウンしたが、県中東北部では大変希少である。

タニイヌワラビ（イワデンドコ科）
Athyrium otophorum
白馬村佐野坂 杉林 780m 2015 年 11 月 20 日
NAC175935 175936

大塚（2013）の「長野県シダ植物雑記（10）」に紹介されているタニイヌワラビの生育地で観察を行ったところ、胞子囊群のついたものを含め 7 株を確認した。以前は 5 株確認されていたが、2 株増えた。

同産地では他にもカタイノデ、イノデモドキ、ナンゴクナライシダ、シケチシダなど暖地性のシダが多数確認されているが、ここ数年の観察で、カタイノデ、イノデモドキの個体数は増加傾向にあり、詳細な調査が待たれる。（写真 4）

ヒメワラビ（ヒメシダ科）
Thelypteris torresiana var. *calvata*
白馬村深空樵の道 730m 2015 年 11 月 20 日
Yoshi-00002

小谷村誌「小谷村の植物」（1993）では南小谷、平岩～大綱に確認記録があるが、白馬村内の深空樵の道で 2 株の生育を確認した。胞子囊群をつけ葉長 100cm ほどの大きな個体である。

この他暖地性のシダの一つであるベニシダは、塩

* 吉沢 敏江 〒 399-9301 北安曇郡白馬村北城 2937-244

島城址では群生に近い生育状態で、岩岳山山麓の杉林内でも数株生育しているのを確認している。

ハナネコノメソウ (ユキノシタ科)

Chrysosplenium album var. *stamineum*

白馬村深空姫川右岸 700 m 2014 年 4 月

東部山地の郷尺窪地籍から姫川へ流れ出る小沢と右岸を流れる水路沿いで開花中の本種の群落を確認した。北安曇エリアでこれまで生育確認記録はなかった。(写真 5)

ウラシマソウ (サトイモ科)

Arisaema thunbergii subsp. *urashima*

小谷村南小谷 550m 放棄水田土手 2015 年 5 月 20 日

北小谷の生育地は社叢内で、花期後も背の高い草本に覆われることがない場所であるが、本生育地は花期を過ぎると草本類に覆われ、開花個体も地上部は消失してしまうが、10 個体以上も生育していた。(写真 6)

アツモリソウ (ラン科)

Cypripedium macranthos var. *speciosum*

白馬村 1900m 2015 年 6 月 6 日

白馬岳山域亜高山帯の草原で、つぼみを持ったものの、開花中のもの、幼植物を含め 10 数個体の生育を確認した。小谷村では小谷村誌「小谷村の植物」に生育地の記載がある。白馬村では口伝のみで、確実な生育地の記載はされていなかったが、今回、写真を撮影することができた。(写真 7)

ナツエビネ (ラン科) *Calanthe puberula* var. *reflexa*

白馬村岩岳山山麓 2014 年 9 月 (写真 8)

サルメンエビネ (ラン科) *Calanthe tricarinata*

白馬村岩岳山山麓 2015 年 6 月 (写真 9)

ナツエビネ、サルメンエビネの 2 種は、ともに 2002 年長野県版レッドデータブック及び、2014 年改訂の長野県版レッドリストで、絶滅危惧 I A 類 (CR) に評価されているラン科エビネ属の植物である。

両種とも、小谷村では小谷村誌「小谷村の植物」に記録があり、報告者も何度か観察している。しかし、白馬村では今まで両種の報告がなかった。

2014 年レッドリスト改訂の調査時に、白馬村岩岳山麓の同じ場所に両種が生育しているのを確認することができた。写真撮影のみで、標本は採取していない。

謝辞

シダ植物の同定、ならびに本報告の作成にあたり、貴重な助言をいただきました長野県環境保全研究所 & ハーバリウム (NAC) の大塚孝一様、石田様には、心より感謝いたします。

引用文献

- 長野県 (2002) 長野県版レッドデータブック 維管束植物編
 長野県 (2014) 長野県版レッドリスト植物編.
 小谷村誌編纂委員会 (1993) 小谷村誌自然編「小谷村の植物」.
 大塚孝一 (2013) 長野県シダ植物雑記 (10), 長野県植物研究会誌 46: 101-108.
 清水建美監修 (1997) 長野県植物誌
 上野勝典・上野由貴枝 (2014) 長野県産シダ植物の新産地 (8), 長野県植物研究会誌 47: 101-103.

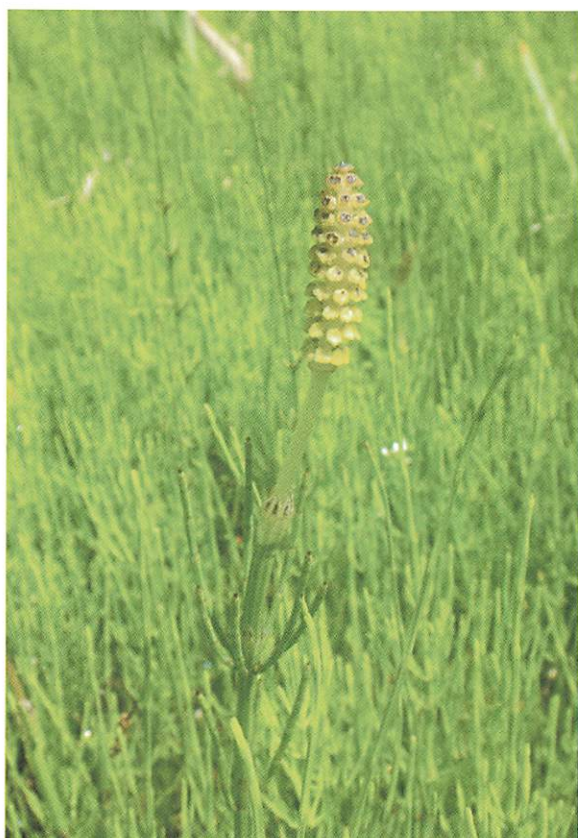


写真1 イヌスギナ



写真2 フモトシダ



写真3 イワガネソウ



写真4 タニイヌワラビ

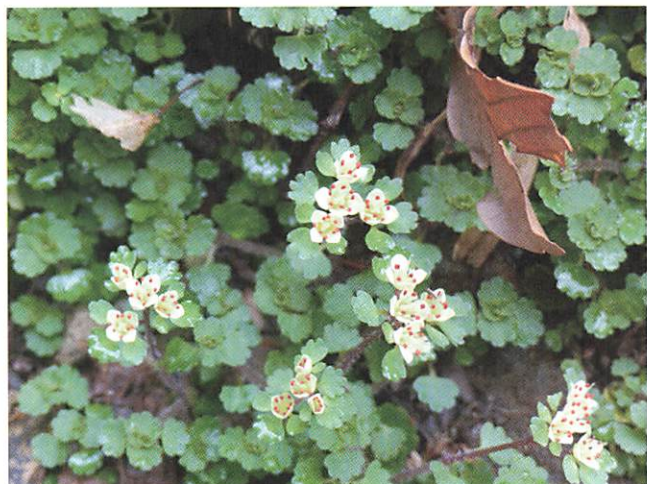


写真5 ハナネコノメソウ



写真7 アツモリソウ

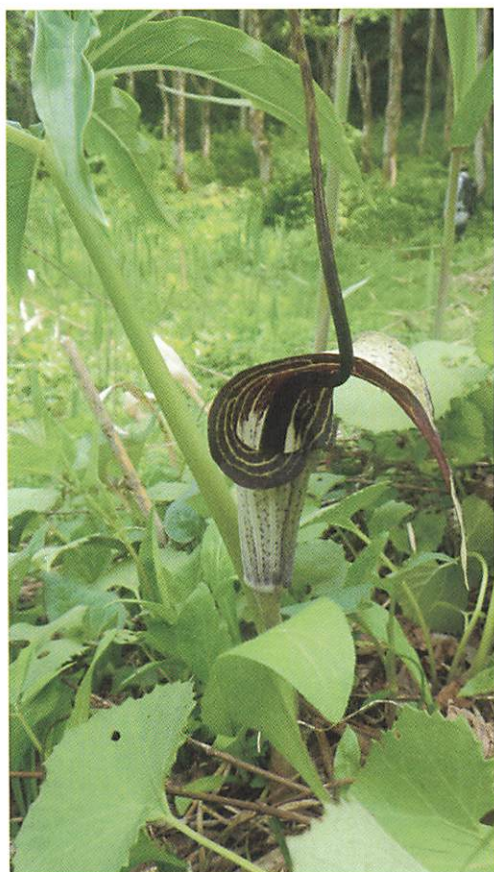


写真6 ウラシマソウ

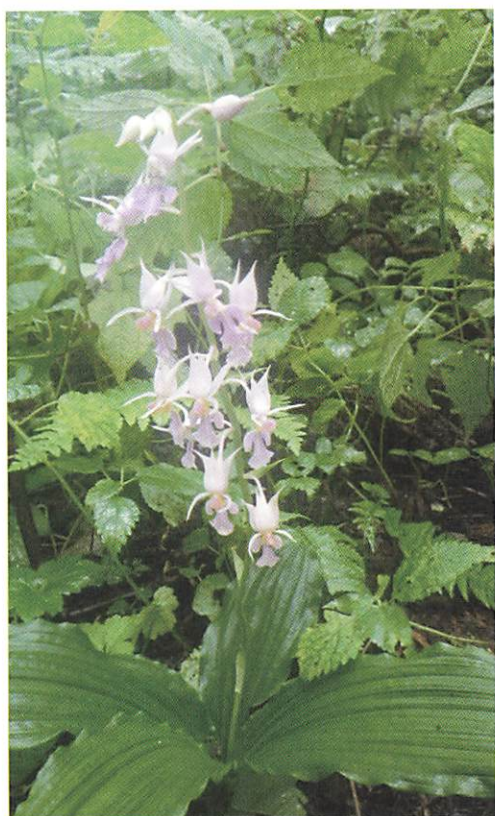


写真8 ナツエビネ

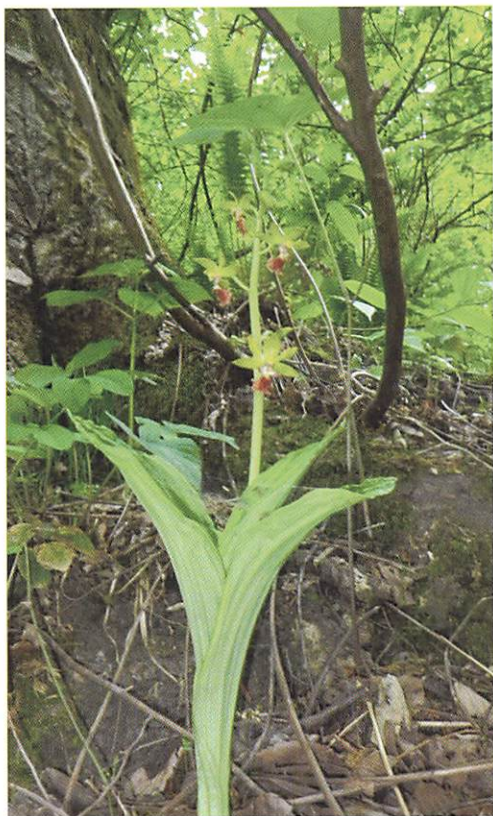


写真9 サルメンエビネ